令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果
－分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　　名　　福島区

学 校 名　　大阪市立海老江東小学校

学校長名　　黒川　祥治

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月18日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査内容

(1) 教科に関する調査

・国語
・算数

(2) 質問紙調査

・児童に対する調査
・学校に対する調査

３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童
・　　学校では、第６学年　　56　　名

令和５年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語の平均正答率は、大阪市平均を4ポイント、全国平均を3.8ポイント上回っている。特に「話すこと聞くこと」において、全国平均を約7.4ポイント、市平均を7.6ポイント上回っている。
算数の平均正答率は、大阪市平均を8ポイント全国平均を7.5ポイント上回っている。領域別では、どの領域でも大阪市平均を約７～８ポイント、全国平均を約６～８ポイント上回っている。
無解答率(問題に解答していない割合）は国語、算数とも全国平均より、国語で2.6ポイント算数で1.1ポイント低い値となっており、粘り強く問題に取り組んでいることがわかる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

「主体的対話的で深い学び」をめざし、この３年間取り組んできている。
［国語］国語の指導に関しては「読む、聞く、話す」などの事項で成果が少しずつ表れてきた。「話すこと聞くこと」の事項「読むこと」の事項で全国平均を大きく上回っている。
課題は、「書くこと」である。いくつか示された文を読み、質問の条件に沿って文を書いて解答する問題では、示されたいくつかの文を丁寧に読み、問われた条件を満たすように文章を記述できるようにすることが必要である。
［算数］少人数指導や習熟度別少人数指導、「主体的対話的で深い学び」をめざす指導の研究成果が少しずつ表れてきている。「変化と関係」の領域、「データの活用の領域」で全国平均を大きく上回っている。課題は、「図形」の領域である。全体的な正答率が低く、それぞれの図形の構成要件や面積の求め方について確かな力をつける必要がある。

質問紙調査より

まず、早寝早起き朝ご飯などの基本的な生活習慣の定着について、本校のこれまでの取組と家庭との連携の効果が表れていると考える。
次に児童と先生との関係では、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」などの設問で児童の肯定的な回答の割合が高く、臨床心理士を招聘しての児童理解の研修会や教職員間での情報共有、日常の学級づくり、校内研究で授業力向上に取り組んできたことなどの取組の成果と考えられる。
課題としては、「友だち関係に満足していますか」「人が困っているときに助ける等の項目について肯定的な回答の割合の増加に一定の成果が見られるが、より良いなかま関係構築を目指して、さらに向上できるような取組が必要である。

今後の取組(アクションプラン)

①児童の豊かな感性、目標や課題にしっかり向き合い努力する心情・態度を育成する。
②授業の初めに学習課題を明確に、課題解決の時間を十分に確保する。授業終末の振り返りで児童が「わかったこと、できたこと」を実感できるようにする。
③ＩＣＴ機器を効果的に活用し、主体的で対話的な学びを推進する。
④１人１台PC、デジタル教科書、デジタルドリルをフルに活用し、児童が興味関心を高め、ＩＣＴ機器を活用した授業や個別最適化を目標とした学習の指導方法を研究する。
⑤これまで取り組んできた自主学習ノートの取組をさらに充実させる。
⑥一問多答となる発問など「主体的対話的で深い学び」の学習指導を多く取り入れる。
⑦根拠を明らかにしながら自分の考えを発表し深め合う学習場面の設定を行う。
⑧総合的な学習や体験的な学習で自分で課題を見つけ探求し解決する学習の機会を設定し達成感や成就感を味わうことができる機会を増加させる。